

# 地域再生計画

## 1 地域再生計画の名称

山の暮らしの再生計画（中山間地域復興計画）

## 2 地域再生計画の作成主体の名称

長岡市

## 3 地域再生計画の区域

長岡市の区域の一部（旧山古志村及び太田地域）

## 4 地域再生計画の目標

### （１）地域の現況

長岡市山古志地域及び太田地区は、新潟県長岡市の南東部、山間丘陵地に位置し、人口減少と高齢化が進む、人口約２千七百人の地域である。面積は約53km<sup>2</sup>（山古志40km<sup>2</sup>、太田13km<sup>2</sup>）で、17の集落（山古志14集落、太田3集落）によって構成され、年間最大積雪が3mを超える国内屈指の豪雪地でもある。山古志及び太田地域には、厳しい自然条件とともに長い歴史の中で育まれてきた生活、棚田、闘牛、錦鯉などの固有の文化に加え、人の絆やもてなしの心など、都会にはない資源が残されている。

近年、中山間地域の暮らしや文化が地域活性化の資源として見直されつつある中で、当地域においてもこれらを活かした都市との交流促進に向け、各種取り組みを進めてきているところであった。

こうした中、平成16年10月23日に発生した「中越地震」は、全域が中山間地域である当地域に、壊滅的被害をもたらした。震度6強の本震と度重なる余震により、地すべりや崖崩れがほぼ全域で発生、道路は至る所での寸断され、地域の産業基盤であった農地や養鯉池は流出、家屋の約4割が全壊、さらに河道閉塞による集落の水没など、かつて経験したことのない甚大な被

表 人口・世帯数・高齢化率

	人口 (人)	世帯数 (世帯)	高齢化率 (%)
長岡市	234,822	79,722	19.5
計	2,655	876	35.0
山古志地域	2,107	674	34.6
太田地区	548	202	36.6

資料：H17.4.住民基本台帳（高齢化率はH12国勢調査）

害を受けることとなった。

今なお、山古志地域にあっては全村民が避難、太田地区でも 226 人の長期避難が続いており、国や新潟県の支援を受けながら、1 日も早い地域の再生を目指し、精力的な復旧事業が進められているところである。

## (2) 地域の課題

住民たちは、約半年にわたる避難生活が続く中で、これまで集落座談会等を通じ、自分たちのふるさとが持つ価値や役割を改めて認識した中で、「かけがえのないふるさとで...もう一度暮らしたい」という熱く切実な願いを共通の意識として育んできた。そして、今回の震災を一過性の悲しい歴史としてのみ終わらせるのではなく、むしろ「新しい地域を創る千載一遇のチャンス」ととらえ、「夢の持てる地域社会の創造」に向けての取り組みを市民と行政が一体となって進め始めたところでもある。

このため、まずは一日も早く住民が地域へ戻れる条件を整えるための復旧事業を進めることが喫緊の課題であるが、これについては国や県ほかの支援により「山古志復興プラン」が策定され、平成 18 年 9 月までにアクセス道路やライフラインなど、最低限の社会資本の復旧の目途が立ったところである。具体的には、「帰ろう山古志へ」を合い言葉に、平成 18 年 9 月の帰村を目指し、主に以下 6 項目を喫緊な問題と捉え、対応を開始している。

### 【当面の復旧事業】

アクセス道路の確保

主要道路、集落内道路、農道・林道

安全な土地の復旧・整備

土砂災害対策、雪害対策

ライフラインの復旧

上水道、電気・電話、その他

住宅の復旧

宅地の安全対策、住宅の再生、被災住宅の撤去

生業の再生

農地・養鯉池の復旧、事業所の復旧

公共機能の復旧

役場、学校、保育所、その他公共施設

しかしながら、これら応急的な復旧を進めるにとどまらず、「持続的に自立した魅力ある中山間地域」を創造するためには、新しい地域を創造する住

民の主体的活動を含めた中長期的な山古志の復興のランドデザインをしっかりと描きつつ、着実かつ確実に、そして個々の取り組みを効率的に進めていくことが必要となる。

復興にあたって想定される個々の取り組みには、住民の生活基盤となる道路、ライフライン、住宅、農地、学校などハードの整備と、コミュニティ、地域の伝統文化、中山間地域の生活産業の再生など、ソフトの取り組み、また、地域観光の核となる蓬平温泉の復興や生涯現役で暮せるむら、美しさと伝統ある地域の創造といった理念的な内容まで、取り組むべき課題は多岐にわたる。

このため、これらの取り組みの優先順位を検討するとともに、有機的な連携により効果を最大限に発揮させることが必要であり、取り組みの主体としては地域住民や行政としての本市のみならず、様々な知見を持ったスタッフによる総合的な検討体制の確保が、ランドデザインの策定とその実行にあたっては必要不可欠な要素となる。

#### 【復興にあたって想定される事業】

##### < 1 . 安全で安心して暮らせる地域の形成 >

被災した市道、農林道の一体的整備や污水处理施設の整備、災害に強い発電システム・情報通信ネットワーク等のインフラを整備したうえで、低コストで安全な中山間地型住宅を整備し、集落の再生を目指す。

併せて、集落コミュニティや地域自治組織の核となるコミュニティ施設の整備、学校等の公共施設を利用した都市・地域交流施設の整備を行う。特に教育に関しては、地元産木材を用いた温もりを感じられる校舎を整備し、少人数制を活かしたきめ細やかで質の高い教育等を実施する。

##### < 2 . 中山間地域の生活産業の確保 >

地域ブランド農業の確立を目指し、(仮称)株式会社山古志を設立すること等でブランド農業の支援を確立する。また、集落宿泊施設や集落レストランの開設と運営の支援等を目指す。

さらに、「錦鯉発祥の地」として特産品である錦鯉に関する展示施設の整備や観光向け錦鯉体験等を実施することで、より一層の錦鯉の特産化と交流の拡大を進める。併せて、地域文化や観光等を一元的に集約して全国へ発信する機能の確立や、地域の文化、人の絆、震災の経験などを紹介するツアーガイド等の育成を目指す。

### < 3 . 地域観光の核となる蓬平温泉の再生 >

蓬平温泉再生に向けた旅館再建支援、温泉地へのアクセス道路及び景観の整備を行うとともに、棚田・手掘隧道・闘牛・錦鯉・メモリアルパーク等と蓬平温泉とが連携した観光コースを設定する。さらに、地域の観光に関する情報を集約し全国へ発信することと併せ、受入れ態勢の強化を図る。

### < 4 . 生涯現役で暮らせるむらづくりの推進 >

地域の高齢者が関われる新たな産業の創出の検討や、集落宿泊施設や各種観光資源における高齢者の参加・貢献の場の確保を目指すとともに、小学校や中学校の授業において、高齢者の知恵と経験を活用できる仕組みを検討する。

さらに、団塊の世代の定年を契機とした就農・移住に対する受け皿を整備することで、定年帰農・移住者を受け入れる。

### < 5 . 美しさと伝統ある地域づくり >

美しい地域景観の創出を目指し、集落再生における建築景観計画や沿道景観マスタープランを策定する。また、NPOや集落組織による景観整備の実施、ビューポイント整備等を実施することで、地域住民が誇りの持てる、来訪者にとっても心地良い地域景観の形成を図る。

特に、(仮称)棚田活用機構を設立することで棚田の保全を目指すとともに、闘牛の後継者育成等を実施することで闘牛再生を目指す。

## (3) 地域再生の目標

このように、地域価値の向上と持続的発展を図るために必要な中長期的に取り組むべき課題は山積しており、復旧事業や復興事業の進捗に合わせ、山古志が目指すグランドデザインを関係者・関係機関が一丸となって日々より良いもの、実効性・効率性の高いものへと見直しを図っていく必要がある。現状においては、「山古志復興プラン」で、これらの出発点となる基本理念を定めており、それに基づく取り組みとして以下に掲げる5つの目標を目指すこととする。

なお、本地域再生計画の取り組みにより期待した成果が発揮できれば、「中山間地型復興モデル」として、全国に波及することができると考える。

### 目標1 . 安心して夢を持って暮らし続けられる地域の形成

暮らしや産業の基盤となる道路・污水处理施設などの一体的整備を進める

とともに、安全でコミュニティに配慮した住宅の再建・耐震改修、公営住宅や公共施設の整備と効果的活用により、集落の生活環境と活力の向上を図る。

また、都会の小中学生が当地域の校舎で学べるような学校交流を促進し、親と子どもの夢をかなえる学校づくりを進める。

指標 1：定住人口

平成 17 年 2,655 人      平成 27 年 2,300 人

指標 2：小中学校オープンスクール登録者数

平成 17 年      12 人      平成 27 年 30 人

## 目標 2 . 中山間地域の生活産業の創出

中山間地域と都市との新たな連携軸を構築しながら、自己実現の場としての棚田の活用やブランド農業の確立、錦鯉の聖地としての産業育成、さらに地域の個性を活かした起業を推進し、地域住民の主体的参加による価値の高い生活産業の創出を目指す。

指標 1：農業産出額（野菜）

平成 13 年 50 百万円      平成 27 年 60 百万円

指標 2：錦鯉販売額

平成 13 年 19 百万円      平成 27 年 20 百万円

指標 3：観光入込み客数（産業観光）

平成 15 年 26 千人      平成 27 年 30 千人

## 目標 3 . 地域観光の核となる蓬平温泉の復興

棚田の景観、中山隧道、闘牛など既存観光資源に加え、今後整備する震災メモリアルパークやアーカイブスとの連携を強化し、中山間地域をはじめ、中越地域の観光の核となる蓬平温泉の復興を目指す。

指標 1：観光入込み客数（温泉）

平成 15 年 60 千人      平成 27 年 80 千人

## 目標 4 . 生涯現役で暮らせるむらづくり

「60代からも地域の後継者」との考えのもと、高齢者が地域産業の担い手として活躍できる場を創出するとともに、自治活動や学校教育などにも貢献できるような環境を整備する。また、定年帰農を含む新規就農者や移住希望者が新たに生活するための条件を整える。

指標 1：定住人口【再掲】

平成 17 年 2,655 人      平成 27 年 2,300 人

指標 2：在宅寝たきり老人数

平成 16 年      43 人      平成 27 年      43 人

目標 5 . 美しさと伝統ある地域としての持続的発展

集落再生に際して後世に誇れる良質な景観の形成を図るとともに、鬪牛や棚田、錦鯉など地域文化や産業と調和した美しく魅力ある地域景観の形成を図る。

また、都市との連携により、棚田や山林が効果的に活用され、保全育成されていくような環境を形成する。

指標 1：定住人口【再掲】

平成 17 年 2,655 人      平成 27 年 2,300 人

指標 2：観光入込み客数（自然景観）

平成 15 年      11 千人      平成 27 年      20 千人

指標 3：棚田耕地面積

平成 12 年      154ha      平成 27 年      160ha

5 目標を達成するために行う事業

5 1 全体の概要

過疎化、高齢化が進む中で、壊滅的被害を受けたことを悲観するだけでなく、見方を変え、地域の良さである人同士の絆や温かい心、さらに地域に潜在する豊かな資源を最大限活用して、自らが復興に向けて望みを持って取り組んでいく。具体的には、今回の震災を「新しい山古志地域と太田地区を創る千載一遇のチャンス」ととらえ、上述した課題克服及び目標達成のため、住民が一丸となって夢の持てる地域社会の実現に向けて、取り組めることから随時実施していく。

その際に、官民を問わず、様々な知見を有する方々からの支援を受け、全国にも誇れるモデル的な地域づくりを進めていく。

5 - 2 法第 4 章の特別の措置を適用して行う事業

該当無し

## 5 - 3 その他の事業

### C3003 地域再生支援のための「特定地域プロジェクトチーム」の編成

#### (1) 特定プロジェクトチームを設置して取り組むべき課題

過疎化、高齢化が進む中、中越地震によって壊滅的な被害を受けた山古志及び太田地域では、今後、被災した人たちが一日も早くふるさとへ帰れるよう、住宅、インフラ、生業、文化、コミュニティなどの早期再生を図るとともに、震災をきっかけに今まで以上に夢の持てる地域が形成されるよう、創造的かつ効果的な事業内容や手法を検討した上で、住民と行政が一体となって総合的な取り組みを進めていくことが必要となっている。具体的には、「(2) 地域の課題」で掲げているランドデザインの検討や、それに基づく個別の事業実施手法などのアドバイスを求めつつ、復興事業を総合的に進めていく。

プロジェクトチームの構成は、現段階において以下のとおりを想定している。

#### 地方公共団体

- ・新潟県

#### 民間、経済団体、地元団体等

- ・長岡商工会議所
- ・長岡観光・コンベンション協会
- ・JA越後ながおか
- ・長岡市米百俵財団

#### 国の地方支分部局

- ・北陸地方整備局
- ・北陸農政局
- ・関東森林管理局
- ・関東経済産業局
- ・北陸信越運輸局
- ・関東財務局

#### (2) プロジェクトチーム設置の必要性

当地域の復旧・復興には、地域全体を対象として、建設、農林業、福祉、文化、産業、環境など、多様な分野の横断的連携による取り組みの実施が必要となる。このため、関係する省庁や新潟県、長岡市が連携し、ランドデ

ザインのあり方を始め、多様な手法を組み合わせた具体的な事業実施の可能性を検討するとともに、実施手法・事業計画についても助言を受ける。

(3) 取組により達成される効果

地域復興に向けた多様な事業の総合的かつ効果的な実施により、中山間地域と都市との新たな連携が促され、地域の活力が向上する。

6 計画期間

認定の日から平成27年3月末まで

7 目標の達成に係る評価に関する事項

目標年次である平成27年3月末時点において、長岡市復興推進室が計画の目標達成度を評価し、これを公表する。

評価の方法は、5つの目標に各20点を配点し、これら5つの点数を加算して合計100点満点として計算する。なお、各目標を構成する指標については、達成状況に応じて点数化し、同一目標内の各指標の平均値に20点を乗ずることにより目標ごとの点数を算出する。

各指標の達成点数

目標値達成の場合	: 100点
目標値に対し概ね20%不足の場合	: 60点
上記未満の場合	: 0点

目標1. 安心して夢を持って暮らし続けられる地域の形成	20点
目標2. 中山間地域の生活産業の創出	20点
目標3. 地域観光の核となる蓬平温泉の復興	20点
目標4. 生涯現役で暮らせるむらづくり	20点
目標5. 美しさと伝統ある地域としての持続的発展	20点
計	100点

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし